

第 1 9 7 1 回埼玉県教育委員会定例会議事録

- 1 日 時 令和 5 年 1 2 月 2 1 日 (木) 午前 1 0 時開会  
午前 1 1 時 1 0 分終了
- 2 場 所 埼玉県教育局教育委員会室
- 3 出席者 日吉教育長、戸所教育長職務代理者、坂東委員、小林委員、首藤委員、櫻井委員、石井副教育長、古垣教育総務部長、青木県立学校部長、石井市町村支援部長、杉田高校教育指導課長、岡島小中学校人事課長、高橋高校教育指導課指導主事  
案浦書記長、小島書記、岩城書記、太田書記
- 4 会議の主宰者 日吉教育長
- 5 会 議
- (1) 前回議事録の承認
- 全出席委員異議なく本件記載どおり承認
  - 日吉教育長が、坂東委員を議事録の署名者に指名した。
- 会議を公開しないこととする事項について
- 日吉教育長が、第 9 0 号議案の審議について、会議を公開しないこととする動議を提出
- 全出席委員がこの動議に賛成し、当該事項について会議を公開しないことに決定
- 日程の変更について
- 日吉教育長が、日程を変更し、会議を公開しないこととした事項以外の日程について先に行うこととする動議を提出
- 全出席委員がこの動議に賛成し、日程を変更することを決定

(2) 報告事項

ア 第33回埼玉県産業教育フェアについて

杉田高校教育指導課長（提出理由、目的、事業概要、成果と課題について説明）

櫻井委員 当日見学し、非常に良い取組だと思っています。質問ですが、これから進学する中学生に多く来場してもらえるように、近隣の中学校を通じての広報活動を実施しているのか教えてください。

杉田高校教育指導課長 現在、総合教育センターで実施している中学校のキャリア教育を担当する教員向けの研修や、年次研修などに参加した教員に周知等をお願いしているところです。

櫻井委員 協力いただけるのであれば、学校にポスターを掲示していただくなど、今後生徒が進路の選択をするに当たり、このようなイベントがあるということを広く周知できるような方策を実行委員会の方にアドバイスしていただけるとよいと思います。

坂東委員 今回は第33回ということですが、33年間全ての県内専門高校が参加しているのでしょうか。

杉田高校教育指導課長 現在専門高校は34校ありますが、その全ての専門高校に加え、総合学科の2校、市立川越高校の全部で37校が毎年参加しています。

坂東委員 全ての学校が毎年参加しているということですね。

杉田高校教育指導課長 はい。

小林委員 昨年度、広報を積極的にしてほしいということをお願いしました。今年度はいろいろなことに取り組まれていることは感じ取れましたが、広報について、昨年度と今年度でどの点をどの程度改善したか教えてください。

杉田高校教育指導課長 まず、ホームページの開設が遅いのではないかと昨年度の御意見を踏まえ、昨年度9月頃開設していたホームページを今年度は5月から開設しました。また、PRイベントをイオン熊谷店及び越谷レイクタウン店で実施しておりましたが、今年度は更に川越市にある丸広百貨店でも実施しました。さらに、大宮駅東口のデジタルサイネージでの広報を実施しました。

小林委員 このイベントはいろいろな目的があると思います。一つは生徒の成果発表の場、そしてもう一つは中学生の進路選択の契機とする場という大きく二つの目的があるかと思います。中学生に対する広報に関しての改善点は何かありますか。

杉田高校教育指導課長 中学生にのみ特化したところは特にありません。

小林委員 報告資料の中で、来場者の内訳の記載があり、中学生が5%となっていました。私は少ないと感じます。当日の来場者が700名とのことですが、過去5年間くらいで人数の変化がどのようになっているか教えてください。

杉田高校教育指導課長 手元に昨年度の来場者数がありますが、昨年度は750名です。それ以前の来場者数については調べて回答します。

小林委員 今年度の来場者数は昨年度と比べ減ってしまったということによろしいですか。

杉田高校教育指導課長 そのとおりです。

小林委員 いろいろと取組をされているのですが、それがしっかりとした結果につながっているかという検証が非常に大切だと思います。一生懸命サイネージを作成したりしているにもかかわらず、昨年度よりも来場者数が減っているという現実を受け止め、効果的な広報の方向性を検討するとよいと思いました。それ自体が生徒の学びにもつながると感じます。また、昨年度、学校紹介のパンフレットを各ブースに置いてほしいとお願いをしました。朝の早い時間に訪問したためかもしれませんが、置いてある学校と置いていない学校がありました。そういった部分も含めてもう少し丁寧に進めていく必要があると感じました。せっかく中学生が来場し、興味のある学校に出会ったとしてもパンフレットを持ち帰ることができないと非常にもったいなく感じます。先ほどの報告の中で、さいたま市立桜木小学校にポスターを掲示したとありましたが、それ以外の学校にはポスターは掲示していないということでしょうか。

杉田高校教育指導課長 はい。

小林委員 県内の中学生はどこからこのイベントの情報を手に入れるのでしょうか。非常にもったいなく感じます。学校での掲示という方法もあると思いますが、

少し問題があると感じています。中学生は高校生と違って、学校にポスターが掲示されていても、それを例えば端末で撮影して帰るといった、情報を持ち帰る手段がなく、見るだけで終わってしまいます。中学生は各々がタブレット端末を使用している状況ですが、そのタブレット端末にどのように情報を届けるかであったり、保護者には学校安全安心メールといったものが配信されている中で、情報を届ける方法は沢山あると思います。こつこつ準備することは大切ですが、700名という当日の来場者数が適切な数なのか検証をお願いしたいと思います。年間を通じてWeb上でいろいろな発信をしていることは分かるのですが、頑張っている高校生たちと専門高校の情報を欲しいと思っている中学生の間で情報が分断されている気がします。どうやったら広報をうまくやっていけるのかといった視点を持ち、丁寧にやっていただけるともっと良い取組になると思いました。

杉田高校教育指導課長 御意見を参考にさせていただきます。今回、中学生に各学校のことを知らせる方法としてスタンプラリーを実施しました。QRコードを掲載しており、スマートフォンで読み取ると各専門高校のホームページを閲覧できるような工夫はいたしました。今、頂いた御意見を今後の改善に生かしてまいりたいと思います。

首藤委員 高校生にとって非常に成果の大きかったイベントだったと思います。来場者にとっても、特に小学生や中学生は、進路選択に有益な体験ができたのではないかと思います。昨年度よりもいろいろなチャンネルを使って広報しています。内容も多様なものになっていますので、成果があったと思います。私が今回参加できなかったのは、地元の中学校の行事と重なっていたためです。11月は学校の行事月間です。学校公開や発表会などが集中します。もし、県のこういった取組があることを地元の校長先生が知っていたら、学校行事と日程を重ねることはなかったと思います。是非次年度は県内の国公立と私立の中学校に広報してほしいと思っています。私の地元の上尾市では、メールでPDF化されたポスターが届きます。わざわざ印刷したものを配る必要はなく、生徒のタブレットにもポスターが届けられるシステムになっています。内容の濃い良い取組なので、そういったものを活用し、全県への広報をお願いします。

杉田高校教育指導課長 改善に活かしてまいりたいと思います。

高橋高校教育指導課指導主事 フェア当日のWeb閲覧数は昨年度が14,500件、令和3年度は全国大会があり、2万件以上です。令和2年度はオンライン開催でした。当日の来場者数の過去のデータは現在手元にありません。

日吉教育長 過去の来場者数はお調べして後ほどということよろしいでしょうか。ほかに御質問、御意見はありますか。

戸所教育長職務代理者 専門高校生にとってこのような場は非常に貴重です。どうやって見てもらうか、どうやって体験してもらうか、どうやって刺激を受けてもらうかということが生徒を成長させる3要素だと思っています。こうした観点に立って2点お伺いしたいことがあります。まず、資料18ページに生徒のコメントがあります。非常に良いコメントですが、どのような点が問題だったかといったことや、来年度はどうしたいかといった考えを当然持っていると思います。もし聞いているのであれば、良かった部分、悪かった部分といった生徒の本音のコメントを教えてください。2点目は、資料17ページと19ページの成果と課題ですが、これは教育局の目線で書かれています。これも専門高校生がこういう場を通して成長していくということが第一だと思います。専門高校生から課題や方向性についての意見があったかどうかということも教えてください。

杉田高校教育指導課長 少しお時間をいただきたいと思います。

戸所教育長職務代理者 こうした活動を通して、物事の本質をつかむことは非常に大事なことだと思います。専門高校生が学ぶことで、社会に出ても様々な課題に対し対応できるようになると思います。そのためにこのようなイベントを開催されているのだと思います。もちろん、先ほどから話が出ていますが、中学生がどのようなところで勉強をしたいか知るきっかけとして、自ら体験して学ぶことも大事です。やはり実際に取り組んだ専門高校生の成長に活かしてもらいたいです。そのためには、どういった部分が足りなくて、どういった部分をもっと実施していくかということ、もう少し掘り下げてもらうことが来年度あるいは今後続けていく上で大事なことだと思います。

杉田高校教育指導課長 参考にさせていただきます。

日吉教育長 専門高校生からどんな声があったかということも含めて、後ほど御報告ということによろしいですか。

高橋高校教育指導課指導主事 先ほどの来場者数が分かりましたので御報告いたします。令和元年度は、カウントの仕方が異なっていますが19,000人です。また、2日間開催しています。

日吉教育長 広報について、また、高校生側から見た成果や今後の課題の析出を今後に生かすという部分について御指導いただきましたので、来年度に向けては、この辺りのところをしっかりと改善していきたいと思います。

#### イ 埼玉県公立高等学校入学者選抜方法の改善について

杉田高校教育指導課長（提出理由、改善の必要性、改善に向けた検討の経緯、県民コメント実施結果、改善の主な内容、実施時期、入試業務の改善について説明）

小林委員 この件については、私の周りの保護者の皆様からも沢山の意見が集まっています。今回の県民コメントを募集するに当たって、入試改善について県民コメントで募集するという広報はどのような方法で行われたのか教えてください。

杉田高校教育指導課長 周知について、まず、小中学校は、市町村教育委員会を通じて通知を行いました。県立高校及び県立特別支援学校に対しては直接通知しました。県のホームページでは、教育委員会のページの新着情報に目立つように掲載をしました。また、重要なお知らせ等にも掲載をしました。あわせて、県のFacebookやX（旧Twitter）にも投稿を行いました。県政情報センターでは閲覧できる紙の資料を置き、周知を行ったところです。

小林委員 私の周りの保護者は県民コメントを募集しているということを知っている方はほとんどいませんでした。私の方からこの話題を出し、皆さんに周知していただいたというところもあります。SNSは使っている人しか見られません。市町村教育委員会に通知を出すことはもちろん必要だと思いますが、非常に大事なことをきちんと保護者の皆さんに届けるためにはどういった方法があるのかということをもう一度考えていただけるとよいかと思います。二つ目ですが、御意見を出してくださった方々の居住する市町村はどのように分布しているでしょう

か。全県から御意見が集まっているのか、人口の多いところからの御意見が多いのか、教育に熱心なところからの御意見が多いのか、その辺りを分析していただければと思います。その辺りを分析していただければと思います。私の周りの保護者に周知していく中で皆さんがおっしゃっていたことは、御自身のお子さんが小学校6年生や中学校1年生で、更に一番上のお子さんがこれらの学年だった場合、現行の入試制度が全く分からないということです。その中で新しい入試制度を検討すると言われても、どこがどう違うのか分からないので、どうしたらよいか分からないとおっしゃっていました。現行の入試制度を丁寧に説明しているところがあるかという点も見当たりません。その方々で集まり、先輩の保護者に教わるといったことをしてくださっている方たちもいました。知らなければ検討のしようがありません。また、知るすべもありません。この状況で御意見を募集することは少し乱暴だと思いました。もう少し丁寧にできるのではないかと私は思いました。最後ですが、保護者の方々は御自身のお子さんの進路に関わることなので、非常に関心も高く、不安に思っている方も多いです。一つ一つ丁寧に説明していけば納得してもらえらると思っておりますが、丁寧な説明やこまめな発信が非常に大切だと思っております。現状の情報発信では足りず、また届かないと感じます。保護者の不安を少しでも軽減し、納得して学校生活を送っていただけるようにしてほしいと思っております。

杉田高校教育指導課長 住所別の集計は行っていません。

小林委員 分析するとどのくらい情報が届いているかということが見えてくるのではないかと思います。その辺りも参考にいただければと思います。私の周りの保護者に周知していく中で皆さんがおっしゃっていたことは、御自身のお子さんが小学校6年生や中学校1年生で、更に一番上のお子さんがこれらの学年だった場合、現行の入試制度が全く分からないということです。その中で新しい入試制度を検討すると言われても、どこがどう違うのか分からないので、どうしたらよいか分からないとおっしゃっていました。現行の入試制度を丁寧に説明しているところがあるかという点も見当たりません。その方々で集まり、先輩の保護者に教わるといったことをしてくださっている方たちもいました。知らなければ検討のしようがありません。また、知るすべもありません。この状況で御意見を募集することは少し乱暴だと思いました。もう少し丁寧にできるのではないかと私は思いました。最後ですが、保護者の方々は御自身のお子さんの進路に関わることなので、非常に関心も高く、不安に思っている方も多いです。一つ一つ丁寧に説明していけば納得してもらえらると思っておりますが、丁寧な説明やこまめな発信が非常に大切だと思っております。現状の情報発信では足りず、また届かないと感じます。保護者の不安を少しでも軽減し、納得して学校生活を送っていただけるようにしてほしいと思っております。

杉田高校教育指導課長 周知につきましては、本日のこの報告の後公表いたしまして、また、小学6年生に対しては改めて年度末までには周知をしたいと考えています。頂いた御意見を踏まえ、丁寧に周知できるように進めてまいりたいと思っております。

櫻井委員 改善の必要性ということで三つ挙げてありますが、中学校学習指導要領の趣旨を踏まえた入学者選抜の実現というところで、今回自己評価資料の記載を求めたり、調査書の様式を変更したりすることは、「学びに向かう力、人間性等」

という部分加わり、それに合うように面接などを実施するために改正が必要になったという理解でよいでしょうか。また、各学校で「入学者の受入れに関する方針」を決めることができるようになったためという説明がありましたが、例えばどのような内容なのか教えてください。

杉田高校教育指導課長 1点目についてですが、今回「学びに向かう力、人間性等」が規定されました。これまでの入試では学力検査と調査書の二つだったので、意欲や学びに向かう力が評価できていない部分がありました。そのため、今回自己評価資料の提出、面接の実施によってそういった部分を評価できるようにしたいというものです。2点目の「入学者の受入れに関する方針」とは、どういった生徒に本校に入学してほしいかを定めたものです。大学等では既に行われていますが、アドミッション・ポリシーに相当します。例えば、「地域に貢献したいと思っている生徒」といった学校として入学してもらいたい生徒像を定めたものが「入学者の受入れに関する方針」です。

坂東委員 選抜基準や選抜方法は各学校に委ねられているのですか。具体的に言うと面接の比率などは各学校が決めるのでしょうか。

杉田高校教育指導課長 ある程度県で枠は設けますが、その範囲内で各学校の特色に応じて選抜基準を定めることを考えています。

坂東委員 それを受検生には事前に公表するということですね。

杉田高校教育指導課長 はい。

坂東委員 県民コメントに寄せられた意見のうち、意見を反映できなかったものにはどのようなものがあつたのか教えてください。

杉田高校教育指導課長 意見を反映できなかったものとしては、希望する学校だけが面接を行うべきといった意見が7件ありました。また、選抜は学力検査のみでよいという意見が6件ありました。さらに、推薦入試を設けてほしいという意見が5件でした。

首藤委員 国の方針の転換に伴ってということで、その方向性自体は良い方向にあると思いますが、いわゆる非認知能力の部分を調査書に書けなくなったと思います。認知能力は測定しやすく点数化しやすいのですが、非認知能力は測定がしに

くいものです。非認知能力が育つ環境として総合的な学習の時間や部活動、生徒会活動というものがあります。その部分の記述を一切調査書からなくしたということは、認知の偏重になってしまうのではないかという気がします。やむを得ない部分ではあり、自己評価資料を使い自分をアピールするところでその分を面接官が読み取るということで、方向性はこれでよいと思います。質問ですが、調査書の各教科の評定の欄には点数が入るのでしょうか。それともA、B、Cが入るのでしょうか。新学習指導要領では資質・能力は三つ示されており、通知表では観点別にA、B、Cが付いていると思いますが、非認知能力に一番近い「学びに向かう力、人間性等」まで含めて点数化したとして、その点数化の方式が各中学校で違っているとすると、「学びに向かう力、人間性等」に起因する点数なのか「知識及び技能」が抜きんでている点数なのか分からなくなります。各中学校で点数が違ってくると評価しづらくなるのかなと思います。調査書の各教科の評定の欄にはどのようなものが入るかそれが各中学校で共通するものなのかどうかを教えてください。

杉田高校教育指導課長 調査書の各教科の評定の欄には通知表と同様、5段階で数字が入ります。評価については、現段階でも統一の評価方法というものはなく、以前から指摘されている部分もあります。一方で、調査書の重みばかりを取るのではなく、様々な観点から生徒を評価するよとということがあります。自己評価資料には調査書に書けなくなった部活動や学校の委員会活動、その他ボランティア活動といった様々な生徒の良い面を書くことができます。そういった部分で評価をしていきたいと考えています。

首藤委員 三つの観点のうち、知識・技能がA、表現力等がA、人間性等がBだった場合と、知識・技能がA、表現力等がB、人間性等がAだった場合では、Aはいずれも二つですが、その場合にどう差を付けるかについては、中学校の裁量ということでしょうか。

石井市町村支援部長 各学校では評価基準を設定し、評価をしています。その評価基準にのっとり、絶対評価で評価を行っているところです。多少の差はあろうか

と思いますが、その部分はならずように各学校では取り組んでいるというのが実情です。

首藤委員 調査書は参考資料ではありますが、学力検査では点数に出てこない音楽、美術、保健体育、技術家庭辺りの取組の成果を知る上で貴重な資料にもなります。できれば中学校間で差が生まれえないような説明の仕方を中学校にしてもらいたいと思います。

戸所教育長職務代理者 面接を全生徒に行うことは非常に良い方向だと思っています。一方でやはり教員の負担は今までと比べ当然増えると思います。それを軽減するべく見直しをするという話がありましたが、今の時点でどのような方法を考えているのでしょうか。

杉田高校教育指導課長 おっしゃるとおり、面接は一部の学校では現在既に行っていますが、それ以外の学校については新たに加わる業務となりますので、全く業務が増えないということはないかと思います。一方で軽減策としては、現在試行的に実施している電子出願というものがあり、今後入力作業が軽減されると考えています。あるいは、採点業務も例えば電子化するなどといったことが考えられます。他県で、デジタル採点を導入している県もあります。予算の関係もあり、決まってはおりませんが、そういったところも参考にしていきたいと思います。また、現在、調査書の部活動の記述について、高校では採点を行っておりますが、今後はその分の採点及び確認作業は削減されるものと考えています。さらに、評価の観点について、県統一のものを設けてできるだけ負担のないような形で実施していきたいと考えているところです。

戸所教育長職務代理者 面接を全校で実施するということを決め、良い方向だと思っておりますが、背中合わせで面接の時間などが増えるわけです。答えていただいた様々なことを検討し、それと抱き合わせで実施していかないと、良い方向だが結果的には教師の負担が増えてしまったということになると大変な課題となります。その部分はしっかりと踏まえて臨むことを希望します。

日吉教育長 様々な御意見を頂きありがとうございます。広報の課題、また、負担軽減なども今後検討していくということで承りましたので、御意見を踏まえてしっかり進めていきたいと思えます。

(3) 次回委員会の開催予定について

1月11日(木) 午前10時

<非公開会議結果>

(4) 議事

第90号議案 教職員の人事について

上程

三郷市教育委員会学校教育部参事兼学務課長大河原正行を、1月1日付けで三郷市立後谷小学校長として発令する人事案を決定しました。